

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 150人

② 数学 150人

#### 5 留意事項

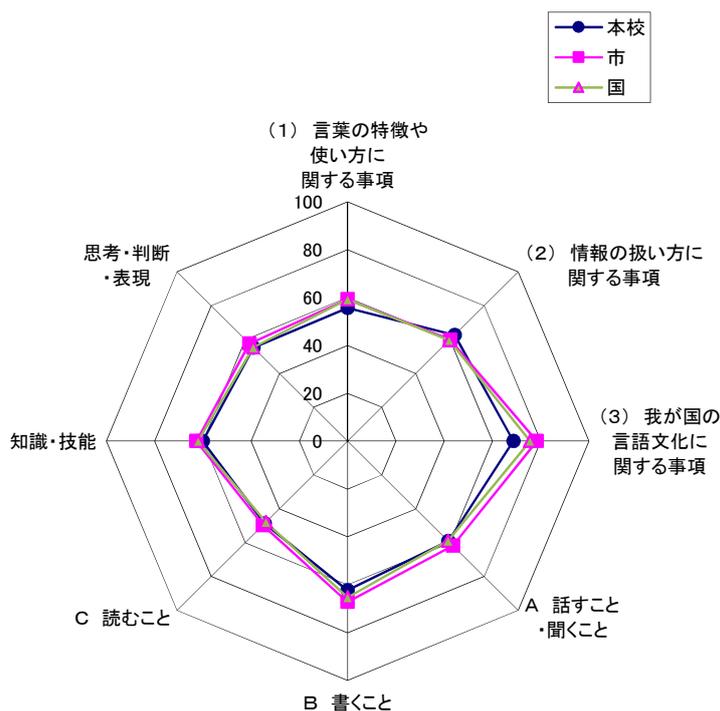
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立旭中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	55.6	59.3	59.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	62.7	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	68.7	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	59.1	61.8	58.8
	B 書くこと	62.3	67.2	65.3
	C 読むこと	48.7	49.7	47.9
観点	知識・技能	60.1	62.7	62.0
	思考・判断・表現	55.2	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

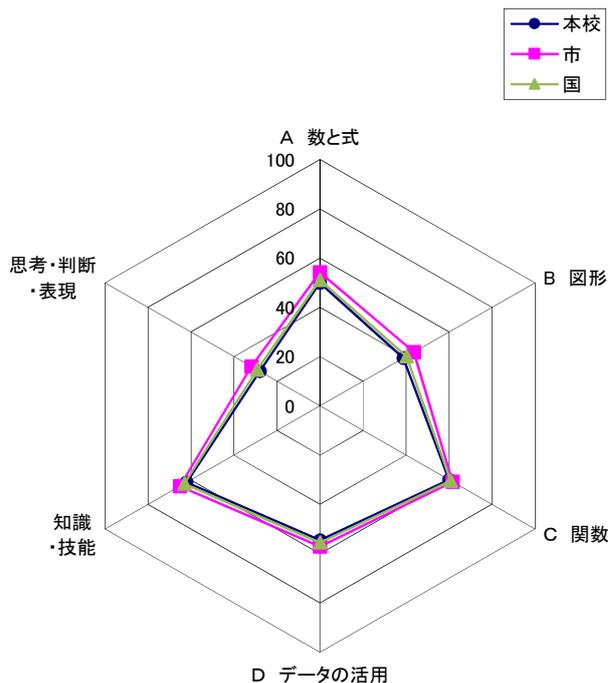
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	○「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」の問いでは、正答率が市平均より0.7ポイント高い。 ●全体の正答率が、市平均より3.7ポイント低い。特に、「表現の技法について理解しているか」の問いの正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使えるようにする。 ・意味の分からない語句を自分で調べる習慣を付けさせる。 ・文脈に即した漢字をきちんと使えるように、普段から漢字の書き取り練習に取り組ませる。 ・授業の中で、表現の工夫について着目させるようにする。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○全体の正答率が、市平均より2.7ポイント高い。特に、「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているか」の問いの正答率が高い。 ●「具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているか」の問題の正答率は、市平均より2.4ポイント低い。	・事実と考え、意見と根拠、具体と抽象などの関係を捉えながら、必要な情報とは何かを要約できるようにする。 ・文章の内容について、自分の知識や体験と結び付けて、考えをまとめさせる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●全体の正答率が市平均より9.7ポイント低い。	・古典の様々な作品に触れ、それぞれの作品の構成や表現の効果について、互いに意見を出し合う場面を設ける。 ・現代語とは異なる、歴史的仮名遣いや表現の特徴について理解しながら、古文に慣れさせ、古文に親しむ態度を育む。
A 話すこと・聞くこと	○「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうか」の問いでは、市平均より5.9ポイント高い。 ●全体の正答率が、市平均よりも2.7ポイント低い。特に、「話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるか」の問題の正答率が低い。	・話し合いの広がりや方向性に注意して、それぞれの場面で適切な発言がされていたかを振り返る学習活動を展開する。 ・共通点と相違点を明らかにし、それぞれの意見から論点を見つける力を身に付けられるように、話し合いの時間を設ける。
B 書くこと	●全体の正答率が、市平均よりも4.9ポイント低い。特に、「自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるか」の問題の正答率が低い。	・説得力のある根拠を考え、根拠を明確に示して自分の意見を書く活動を設ける。 ・説得力のある根拠を、具体的に出し合う活動を行いながら、自分の意見を効果的に伝えるための工夫を考える活動に取り組む。
C 読むこと	○「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるか」「短歌の内容について、描写を基に捉えることができるか」の問題の正答率は、市平均より高い。 ●全体の正答率が、市平均よりも、1ポイント低い。特に、「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるか」の正答率が低い。	・場面の展開や表現の工夫に着目しながら、作品を読み進められるようにする。 ・場面ごとの人物の考えや人物どうしの関係を捉えて、自分の考えをまとめられるようにする。

# 宇都宮市立旭中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	49.9	54.2	51.1
	B 図形	38.7	43.6	40.3
	C 関数	60.0	61.7	60.7
	D データの活用	54.5	57.1	55.5
観点	知識・技能	62.1	65.2	63.1
	思考・判断・表現	28.0	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>○「問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる」問題は、全国平均より1.1ポイント高い。</p> <p>●5問中4問で無回答率が市平均より上回った。目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題では、9.3ポイントの差があった。</p>	<p>・「数と式」領域における各単元の前にレディネステスト等を行い、状況に応じて前の学年の復習の時間を取ったりプリント学習などで補ったりする。</p> <p>・小テストを定期的に行い、知識や技能の定着を図る。</p> <p>・基礎計算を反復練習させることで、途中式の意味を理解できるようにする機会を増やす。</p>
B 図形	<p>○「事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる」問題では、全国平均より2.6ポイント高い。</p> <p>●領域での正答率は市平均より4.9ポイント、全国平均より1.6ポイント低い。</p> <p>●証明問題での無回答率が、全国平均より11.7ポイント高い。</p>	<p>・長さや角度を求めるといった、証明以外の問題でも、どのようにして解いたのかを考えさせる(あるいは記述させる)習慣が付くように指導を工夫する。</p> <p>・証明で全文を書くのが難しい場合、穴埋め問題なども利用し、少しずつ取り組めるようにしていく。</p>
C 関数	<p>○「1次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる」問題は、全国平均より2.0ポイント位高い。</p> <p>●領域での正答率は市平均より1.7ポイント、全国平均より0.7ポイント低い。</p> <p>●全ての問題において、無回答率が市平均と全国平均より高い。</p>	<p>・表やグラフを書いたり、式を求めたりする技能を、プリント学習などを通して定着させる。</p> <p>・日常生活と関連する具体的な事象を課題として用い、解決方法を考えていく活動の深化を図る。</p> <p>・問題ごとに式、グラフ、表をまとめ、3つの関りを意識させる指導をしていく。</p>
D データの活用	<p>○「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題は、全国平均より0.8ポイント高い。</p> <p>●正答率は市平均より2.6ポイント、全国平均より1.0ポイント低い。</p> <p>●全ての問題において、無回答率が市平均と全国平均より高い。</p>	<p>・ヒストグラムや箱ひげ図をかけるようになることと、そこからどのような傾向を読み取れるか考えさせる活動を行うようにする。</p> <p>・多数回の試行を伴う実験を実際に行い、その相対度数が求める確率になることを理解できるように補充を図る。</p> <p>・データ上明らかな分析を箇条書きなどの短い文でまとめる指導を行い、当たり前を感じるような分析の積み重ねに慣れさせる。</p>

## 宇都宮市立旭中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○良好な状況が見られるもの

- (8)「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか」では、肯定割合が全国の平均を6.3P上回っている。
- (9)「自分には、よいところがあると思いますか」では、肯定割合が県の平均を4.6P、全国の平均を6.9P上回っている。
- (14)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」では、肯定割合が県の平均を4.0P、全国の平均を7.0P上回っている。
- (22)「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では2時間以上勉強している生徒の割合が県の平均を0.8P、全国の平均を6.9P上回っている。
- (25)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」では、肯定割合が県の平均を6.4P、全国の平均を10.2P上回っている。
- (29)「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」では、肯定割合が県の平均を4.2P、全国の平均を8.4P上回っている。
- (31)「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行いましたか」では、肯定割合が県の平均を4.5P、全国の平均を9.0P上回っている。
- (38)「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」では、肯定割合が県の平均を1.5P、全国の平均を6.7P上回っている。
- (40)「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」では、肯定割合が県の平均を3.6P、全国の平均を7.6P上回っている。
- (53)「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では、肯定割合が県の平均を4.7P、全国の平均を7.1P上回っている。
- (59)「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがありますか」では、肯定割合が県の平均を6.9P、全国の平均を9.6P上回っている。
- 課題が見られるもの
- (16)「学校に行くのは楽しいと思いますか」では、肯定割合が県の平均を6.8P、全国の平均を5.4P下回っている。
- (24)「新聞を読んでいますか」では、肯定割合が県の平均を2.8P、全国の平均を3.3P下回っている。
- (30)「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」では、肯定割合が県の平均を3.9P、全国の平均を0.9P下回っている。
- (50)「数学の勉強は好きですか」では、肯定割合が県の平均を4.1P、全国の平均を5.6P下回っている。
- (52)「数学の授業の内容はよく分かりますか」では、肯定割合が県の平均を10.5P、全国の平均を10.4P下回っている。

#### 【考察】

本校の生徒は先生に対する信頼度が全般的に高く、よい関係が築けていると同時に、調べ学習や発表にも意欲的な面が見られた。一方では社会的事象への関心が高いとは言えず、また数学への関心・意欲や学力が十分とは言えない結果となった。今後は社会で実際に問題となっている事象を授業の中でも取り上げ、興味をもたせることで学力向上につなげたい。

## 宇都宮市立旭中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習のめあてと振り返りの充実	授業の始めには、めあてを提示し、授業の終わりには学びを振り返り、言語化する。 ※ はっきり・じっくり・すっきり	(29)授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。 (38)先生は学習のことについてほめてくれる。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
様々な場面で言葉や技能を使いこなす力の向上 信頼できる情報や知識を収集し有効に活用する力の向上 無回答率の改善	知識・技能の習得の充実とそれを生活の中で生かすこと 思考力を問う問題の活用 問題解決のプロセスの重視	教科・領域で学んだ知識・技能を思考に活かせる包括的な授業の工夫を図る。 授業中に、知識の定着だけでなく、思考力や判断力を問う問題を取り入れる。 正解を出すことだけでなく、問題解決に至るまでのプロセスを重視した指導を行う。